特養施設長
刺殺1ヵ月

トラブル原因か

郷田さん 直前に電話 人名尋ねる

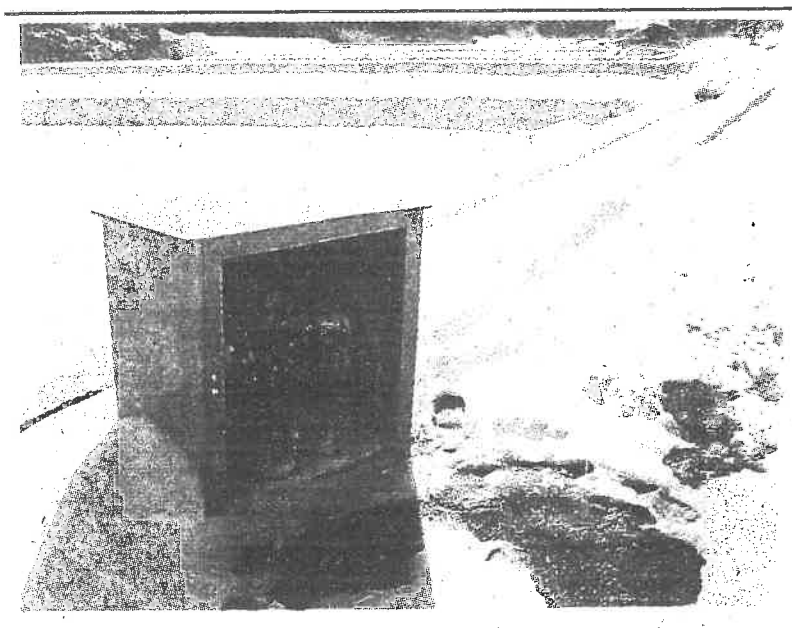
大朝町の特別養護老人ホーム「やすらぎ」の施設長郷田和昭さん(四九)=同町宮迫=が刺殺された事件は、九日で遺体の発見から一カ月が過ぎた。県警の捜査本部は、容疑者が財布には手をつけていないことなどから、物取りではなく、何かのトラブルが背景にあったとの見方を強めている。郷田さんが殺害される直前に、一九九六年五月まで勤めていた広島千代田農協（千代田町）に電話していたことも判明。捜査本部は七十人体制で、聞き込みなどを続けている。

遺族 悲しみ深い新年

複数の関係者によると、郷田さんは殺害された直前とみられる昨年十二月八日午後五時半ごろ、農協の受付に電話し、資材係の担当者につなぐよう要請。担当者に対し、「『やまもと』を知っているか」と尋ねた。直後に、受話器の向こうで物音がして、突然電話が切れた、という。

捜査本部は、郷田さんが口にした姓の人物が事件に関与している疑いもあるとみて、老人ホームや農協の出入り業者に同じ姓の人物がいないかどうか、割り出しを進めている。

残された妻(四四)と二人の娘。家族三人となって新年を迎えた遺族の悲しみは深い。四十九日の法要も済んでいないため、自宅の仏前には白木の箱に納められた遺骨と、真新しい遺影が並ぶ。妻は「どこへ行くのも家族一緒だったのに…。犯人が逮捕されるまで、胸のつかえはとれません」。心の傷は、少しもいえない。



郷田さんの遺体が発見された現場に置かれた木箱の中には、花束や缶コーヒーなどが供えられている

老人ホーム一階の会議室に置いていた県警の現地捜査本部は十二月下旬に撤収されたが、今でも数人の捜査員が出入りする。「利用者のお年寄りたちを動揺させないよう、職務に励んでいる。それが郷田さんの供養になるはず」。竹内昌晴施設長代行(六四)の表情も曇りがちだ。

年が明けた四日、郷田さんの遺体が発見された現場には、雪が一〇センチ余り積もった。「せっかく供えた花が埋もれてしまわないように」と、老人ホームの女性職員の一人が、手製の木箱（縦九十センチ、横九十センチ、奥行き六十センチ）を用意。花やたばこ、缶コーヒーなどの供え物が絶えない。